

プール開放

打瀬の夏のメインイベント



プール開放最終日に集まった子供たちとお母さんがた、ボランティアの方々

今年も打瀬小学校アリーナ上のプールを借りてプール開放が行われました。現在ベイタウンの子供たちの夏の水遊びは、稲毛、習志野等の公営プールの利用と家族での海水浴場がほとんどかと思いますが、小学校の開放プールの魅力は何といても近いということでしょう。家からプールまで歩いて5分。この手軽さが魅力で、多い日には50人もの親子がプールに入るという事もありました。親子で、しかも日頃学校で遊んでいる何人もの友達と一緒にプールで遊ぶ、これは子供たちにはたまらない楽しみのようで、中にはプールの皆勤賞という猛者も何組かいました。

プール開放は、千葉市教育委員会からの話を4番街の鎌田さん(学校開放委員)が受けてくださり、昨年より実現したのですが、「夏休みの間空いているプールを一般に開放しては」という、一見自然な発想の実現にも事故の予防という観点から多くの制約があり、現在もこの制約は保護者の同伴や入場時間の制限、さらにはプールの水質の管理などの規制として残っています。誰もが好きなときに行って泳げ、事故があった場合は本人の責任という昔の小川や海の水遊びのように行きません

が、これは毎年プール開放を続けるうちに少しずつ利用しやすい管理方法を考えてゆくのがベストでしょう。

小学校のプールは、大きさや深さが子供向けに設計されており、泳ぎを覚える時期の小学生にはとても貴重な施設です。ボランティアの監視員の皆さんの中には水泳の指導経験のある方も多く、ときには空いたプールでじっくりと個人指導を受ける子供も居ました。日頃街でよく見掛けるおじさんが水泳の先生に、街のプール開放ならではの風景です。また、今回のプール開放では、毎日プールから上がる前の時間を利用して25メートルのタイム測定を行いました。最初は嫌がっていた子供たちも、自分のタイムの向上が励みになり、プール開放の後半にはこのタイム測定を楽しみにするようになっていました。

プール開放を通して、親や先生という関係の中だけでなく、地域のコミュニティの中で育つ子供たち。今年のプール開放は子供たちにもボランティアの皆さんにもとても充実した夏休みを与えてくれました。

(松)

コミュニティコア研究会、 住民集会を開催

設計に向けた条件整理に入るのを機に、改めて住民要望の反映を目指す



コミュニティコアの建設計画に住民サイドの要望を反映させようと関係者との協議にあたってきた「コミュニティコア研究会」は9月5日午前10時から、パティオス5番街の集会所でコア建設計画に対する住民の意向を改めて確認する住民集会を開きました。出席者数は31人。「教会を誘致できないか」「葬祭場はどうか」「予算やスケジュールは?」「郵便局はコアにふさわしくないのでは」などの質問や要望が相次ぎました。研究会では今後、県企業庁で今年度実施する設計条件の整理作業の節目ごとに状況報告会を開く予定です。

今回の住民集会は、コミュニティコアを建設する県企業庁と、完成後の施設のうち少なくとも一部を運営することになる千葉市との間で、「市で完成後の施設を所有し管理する」方向で基本合意に至り（6月1日発行第25号参照）、設計に向けた条件整理の作業に入ったことを受けたもの。県企業庁からの委託を受けて実際の作業を進める民間コンサルタントの担当者にも出席してもらい、施設の配置や、具体用途の固まっていない「多目的スペース」の考え方などを確認しました（茂木）

基礎から知る「コミュニティコア」6つのポイント

「コア」って、なに?

県企業庁が「コミュニティ活動の展開と幕張独自の文化の形成」を目的に建設するベイタウンの中心施設。敷地は、パティオス5番街と10番街、11番街、12番街に囲まれた約130m×約70mの土地で、いま駐車場や「かるがも館」があるところ。県企業庁では2001年度第1期オープンを目指して準備を進めています。

どんな施設ができるの?

2001年度オープンを予定しているのは、千葉市の運営する図書館と公民館を中心とした「早期整備施設」と呼ばれる部分。コア全体の一部にすぎません。「早期整備施設」の中には、郵便局や「多目的スペース」もできる予定です。段階整備を前提にしているものの、「早期」以後、いつ、どんな施設を整備していくかは未定。

「多目的スペース」って、なに?

未定。「早期整備施設」は、千葉市が県企業庁から無償で譲り受けて管理するので、ここをどう利用するかは市の考え方に大きく左右されます。市ではまず、出

張所や子供ルームなどの公共公益施設にあてられないか、との方向で検討していく考えです。「早期整備施設」の性格はその内容によって違ったものになりそうです。

いま、どんな作業をしているの?

県企業庁では施設の設計を前に、条件を整理する作業を民間のコンサルタントに委託したところ。8月24日には、県企業庁やコンサルタントの担当者と住民サイドとの顔合わせも兼ねた話し合いがありました。コンサルタントの担当者によれば、来年1月をめどに3回ほど協議を重ねて成果をまとめる予定とのこと。

協議での焦点はなんなの?（図1参照）

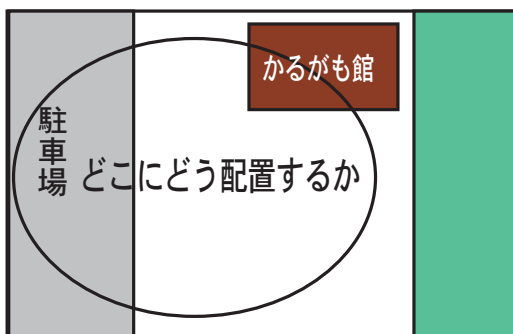


図1. 駐車場はいまのままでいいのか?

考えられる一つは、1ha近い広い敷地のどこに「早期整備施設」をつくるのか、という点です。段階整備を考えれば、「早期」以後に整備する施設まで含めた全体のイメージくらい固まっていなければ、「早期」の位置も確定できないはずです。ただ、現実にはそれは極めて難しい。で、そこをどう考えていくかです。

協議での焦点はなんなの?（図2参照）

もう一つは施設内部のこと。「多目的スペース」をなにに利用するのか、という問題と同時に、「早期整備施設」の運営・管理を市はどのようにするのか、という点も見逃すことはできません。この点は市の判断でもあるので、施設の建設主体である県企業庁だけでなく管理者となる市との協議も重んじる必要があります。

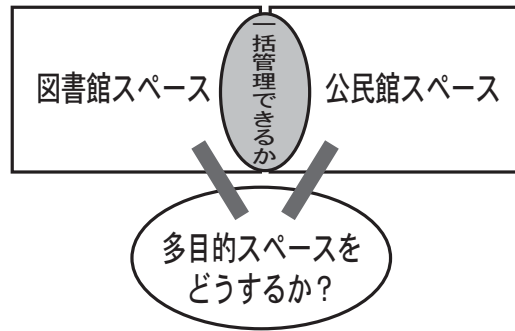


図2 「多目的スペース」をどうするか?

ゴムバレー 観戦記

!0)。

うにも熱気が伝わってくる。この日は参加人数の関係で、9人制のところを5人でプレーしているとのこと。そのためか、コート駆けめぐり、誰もが汗びしょり。日頃運動不足（とほほ…）の記者の目には、かなりハードなスポーツに映った。

しかし、実際にはゴム製のボールは柔らかく、「音」の割には手にあたっても痛くなく、突き指の心配もないという。メンバーもほとんどが未経験者で、誰でも何回かやるうちに一緒にゲームを楽しめるのがゴムバレーの一番の魅力だ。

「下手でも、とにかく高くボールを上げれば、誰かがカバーしてくれる。そうやって、みんなで力を出し合ってプレーができるところがいいところです」

「始まると夢中になっちゃいますね。普通のバレーと違って、ローテーションがあるからいろんな場所が経験できるのも楽しいですよ」…汗を拭きながら答えてくれるメンバーの顔が上気して、スポーツした後の爽快感が伝わってくる。（この後飲むビールは格別だろう！）

記者の知識不足だが、千葉市はゴムバレー（正式には「家庭バレーボール」）が盛んで、ベイタウンでいうと各番街に一つくらいの割合でチームがあるとか。春と秋に行われる大会には300近いチームがエントリーする。

しかし、このチームでは全員が運動できるようにラリーを続けることを目的に和気あいあいと練習を続けており、試合の勝敗は現時点では考えていないようだ。“ネットより上からアタックを打ってはいけない”“1回で返してはいけない（ブロックなし）”という独特のルールが示すように、誰もがそれぞれのレベルで楽しめるスポーツ、それがゴムバレーの本来の姿なのだろう。

とは言ってもみんなの力で手にした勝利はやはりうれしい。8月1日に幕張西中学で行われた幕張地区の大会で3位に入賞し、俄然意気があがる。何チーム、エントリーしたかは言わぬがハナ。

（取材／佐藤）

ゴムバレーの練習があるというので、ベイタウンの家々で夕食が終わる時刻、打瀬小の体育館に向かった。練習試合の真っ最中。ボールを追って白熱したラリーが続いていた。

体育館にはボールを打つ音と、お互いを励まし合う声と、ミスしたときの悲鳴、得点したときの歓声が響いて、見ているほう



幕張地区大会3位の賞状を手にハイ、チーズ！



ゴムバレー連絡先：君島さん

またまた交通事故発生

8月14日（土）午前11:45分頃4、6、15番街および赤玉青玉公園で囲まれた交差点（供用開始されたばかり）で、またまた自動車同志による出会い頭の衝突事故が発生しました。優先方向（バス通り方向北向き）はベイタウン住民の方、一時停止無視（メッセ大通りから東向き）は外部の方でした。当日は熱帯低気圧の影響による集中豪雨で一時停止が見えなかったとか（但し、かなり段差のあるかまぼこが設置されていますが）。

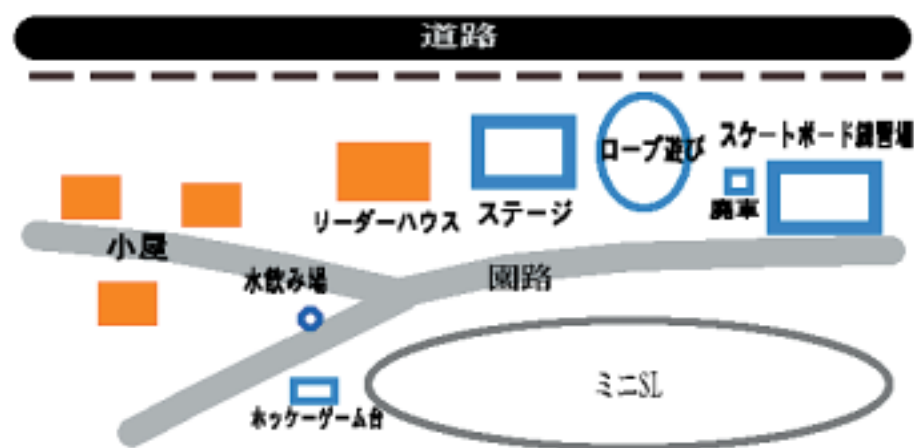
双方の車両はぶつかったまま、4番街側のガード（丸い緑のお地藏さん）にぶつかって停止しました。乗車していた男の子が頭部をぶつけたらしく、救急車ではこばれています。

自治会連合会では事故多発交差点について、7月13日に千葉西警察ならびに企業庁に書面をもって対応を要請しておりますが、皆さんもベイタウン内の交通には十分な注意をお願いします。



こんな公園がほしい！

「幕張ベイトウンにエコパークをつくる会」冒険遊び場、世田谷プレーパークを訪ねる



図は世田谷公園の一角にあるプレーパーク部分（ミニ SL は除く）。遊具はすべて手作りのものか不要品で、木にぶらさげたロープ、古タイヤ、廃車など、遊び方を限定しないものがほとんどです。【写真左上】手作りの小屋は屋根がすべり台にもなる【写真上】リーダーハウスの脇では世話人やプレーリーダーが打ち合わせ【写真右上】公園内の木には子供たちが作った「城」が

「幕張ベイトウンにエコパークをつくる会」では8月21日、東京都世田谷区内の冒険遊び場、世田谷プレーパークの見学会を開催しました。参加者は8人。午前9時すぎに海浜幕張駅を出発して、午前中いっぱいかけてプレーパークを見学するとともに、運営を支援する社会福祉法人世田谷ボランティア協会の担当者から運営体制や運営上の課題に関して話を聞きました。プレーパークの掲げる「自分の責任で自由に遊ぶ」との考え方をベイトウンでも実現させたいものです。

世田谷プレーパークは、東急新玉川線池尻大橋駅から歩いて10分ほどのところにある区立世田谷公園の一角にあります。広さは約1780㎡。木立ちの中に、鮮やかなペインティングを施した小屋や丸太を組んだリーダーハウスなどが点在し、独立した集落のよう。役所の管理する公園の中で異彩を放っています。

プレーパークのユニークなのは、役所の管理する公園にありがちな禁止事項がいっさいないこと。水飲み場の水や、樹木、土、パーク内に用意してあるかまどや工具類などを使って、自由に遊べます。もちろん、遊びに付きも



の事故の起きる危険性もそれだけ大きくなりますが、「自分の責任で」というここでの理念を徹底させることなどで、「自由に遊ぶ」ことが追いやられることのないよう配慮しています。

こうした理念を実現するには、しっかりした運営体制が欠かせません。プレーパークでは、近所の主婦ら十数人

で構成するボランティアの世話人と、日本全国に募集をかけて選んだ月給制のプレーリーダーの若者二人が、自由に遊べる環境をつくる役割を担っています。地元の世田谷区も、プレーリーダーへの給与の一部を補助することで運営を支援しています。

世田谷区内でのプレーパークの歴史は古く、「運営は住民、資金は行政」という、いまの運営体制ができたのは20年も前のこと。第一号の羽根木を皮切りに、世田谷、駒沢、と区内3カ所で実現済みです。こうした運営体制を築き上げるまでにはまだまだ時間や労力が必要でしょうが、自由に遊べる環境づくりに向けてできることから始めてみませんか。

（茂木）

※「幕張ベイトウンにエコパークをつくる会」は、自然に触れ、自由に遊ぶ場としての「エコパーク」をつくることを目的に活動する住民のグループ。お問い合わせは18番街小川さん（TEL 211-7736/E-mail fwic5763@mb.infoweb.ne.jp）まで。

ベイトウンにフランス料理店がオープン

この夏から入居が始まったパティオス 15 番街に、新しいレストランが入ることになりました（10 月上旬オープン予定）。今回、オーナーシェフとなる根本義和さん（ミラリオ在住）にインタビューすることができましたので、ご紹介しましょう。

根本さんは、都内や千葉県内のホテル、レストランで勤めた後（フランスでも修業経験あり）、「これからの街、国際都市を目指す街」であるここベイトウンに惚れ込み、ぜひベイトウンで自分の店を持ちたいという気持ちを強め、実際ミラリオに居住して開店準備を進めていたそうです。新しいお店は、奥様と二人で切り盛りします。「ワインを飲みながら気楽に楽しめ、ボリューム感もある、ごく家庭的な料理を提供したい」とのことです。夜のコースでも 3,000 円以内という手頃な価格設定も魅力となりそうです。営業が軌道に乗った後、料理教室なども開催したいとか。お店の名前は、『ラ・キュージヌ・ドウ・カズ（かずさんの料理）』。最後に、根本さんから一言。「夫婦二人の力を合わせて頑張りますのでよろしくをお願いします」【板東】

ベイトウンニュース編集局より

この夏から入居された 15 番街、グランパティオス公園東の街、セントラルパークウェストの皆さん、ベイトウンにようこそ。

私たちベイトウンニュース編集局は、幕張ベイトウンという新しい街のコミュニティー文化を創る目的でこのベイトウンニュースを発行しています。編集局員は全部で 6 名、全員ボランティアです。また、運営は独立採算性で、毎号自分たちの営業活動でスポンサーを募り、その広告収入と、一部の篤志家からの寄付だけで全経費を賄っています。運悪くスポンサーが見つからない号は、白黒にしたり、紙質を落とす等で切り抜けることもあります。配布対象は、ベイトウン内の全戸および幕張新都心業務地域の各企業としています。毎月 1 回の配布日（第 1 土曜日。今月は都合により 1 週間遅れ）には、私たちの活動に共感して下さるやはりボランティアの『ニュースサポーター』の皆さんと一緒に全戸のポストまでお届けしています。

さて、前置きが長くなりましたが、皆さんにお願いです。今年に入ってから公園西の街：129 世帯、15 番街：126 世帯、公園東の街：253 世帯、セントラルパークウェスト：283 世帯とうなぎのぼりに配布対象戸数が増えており、また自治活動の活発化に伴い、青少年育成委員会だよりや各種イベントの案内などの折り込みも多くなっていますが、『ニュースサポーター』の数は不足気味で、毎月の新聞配布作業がパンク状態です。ぜひ、新しくこの街の一員となった皆さんにもお手伝い頂きたいのです。ご協力頂ける方は、毎月第一土曜日の午前 10 時から、パティオス 10 番街の集会室において下さるか、編集委員にご連絡下さい（今回のように突発的変更の場合は、事前にお知らせします）。毎回ではな

編・集・後・記

◆またまた街の駐車状態がひどくなりました。一時、ベイトウンニュースでは駐車問題を毎月のように取り上げていました。その時、違法駐車車両をあまり強制的に排除するような論調にすべきでないとの意見もありましたが、何年にもおよぶ活動の結果、今のベイトウンでは法律などで規制されていないことを良識ではカバーできないことが分かってきたので、駐車問題に関しては「交通委員会」の方々と協力して違法駐車排除に強制力を持たせる方向で検討すべきだと思います。駐車場が無いと泣き言を言っていた人たちが交通法規を守る気がない事は、街のど真ん中に建設された企業庁の有料駐車場ががらであることから証明されています。街は駐車場ではありません。

企画：#3-220 金一剛 (T:211-0388/ikkim@xa2.so-net.or.jp)

◆先日幕張クリーンセンターで、廃棄物空気輸送システム機器を見学させていただきました。所長の伊藤さんのお話は「大人のかたには大きな掃除機を思い浮かべていただくと、仕組みがよく分かるようです。また、小学生の子どもたちには”象さんのお鼻のような仕組み”と言っています。」など、とても身近で分かりやすかったです。みなさんも一度、お子さんと一緒に見学してみたいはいかがでしょう。

記者：公園東の街 浜田貴代子 (atmark@pop01.odn.ne.jp)

◆9 番街・10 番街の隣に広がる空き地の水たまりがきれいに埋め立てられてしまいました。詳しい事情はわかりませんが、「危ない」とか「蚊が出る」とかの声を受けてではないでしょうか。公園予定地で、ベイトウンでは数少ない「窪み」や「水」のあった場所だけに残念です。公園づくりには貴重な“資源”だったのに……。

記者：茂木俊輔 (T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

◆グランパティオスにもセントラルパークにも、明りが灯り始め、それが段々に増えていきます。この街に引っ越してきたときの新鮮な気持ちがよみがえります。新しい住民の皆さん、ベイトウンニュースの配布を手伝ってませんか。街に住む人や街の様子を知るきっかけになるはずですよ。

タウンスケッチ記者：#3-310 佐藤則子 (T&F:211-0090)

◆幕張ベイトウンの皆様へ ひまわりの種をありがとう

僕は打瀬中学校の周りの草地に住む野ねずみです。名前はまだまだありません。今年も中学校周りの空き地ではベイトウンの皆様が植えてくれたひまわりが大きな花を咲かせ、大好物の種をたくさんつけたおかげで僕達もたくさんの仲間を増やすことができました。聞けば僕たちが種を食べてしまったせいで、ベイトウンの子供たちが楽しみにしていた秋のひまわりの種収穫祭ができなくなったとのこと、誠に申し訳なく思います。今年は去年に比べひまわりも数が少なかったようです。来年はもっといっぱいひまわりを育てて、僕たちも子供たちもハッピーになれるよう頑張らしましょう。

技術：#10-612 松村守康 (T&F:211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp)

◆いよいよ横断橋が姿を見せ始めましたね。名前の公開募集にも 100 件を超える名案・奇案・珍案が寄せられており、皆さんのこの街に対する思い入れが感じられます。さて、どんな名前が選ばれるのでしょうか。とても楽しみです。（お詫びと訂正：先月号のこの欄で、金さんの名前を「一韓」と誤って表記してしまいました。正しくは「一剛（いるがん）」さんです。お詫びとともに、訂正させていただきます。）

編集：#1-210 板東司 (T&F:211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

くお手伝いいただける月だけでも結構です。この配布の会合は、ささやかですがコミュニティ活動の情報交換の場ともなっています。

投入口に入るのに、ゴミがつまるのはなぜ?

まるで子どもの夏休みの宿題のようですが、題のような疑問点解決のため、幕張クリーンセンターにてお話を伺ってまいりました。

①まず、ゴミを送る管の直径が50cmなのです。

ゆえに、縦に入ったまな板の高さがネックになって、つまってしまうのです。また、フライパンの場合、柄の長さまで入れて50cm以内のもでないと、つまってしまうわけです。

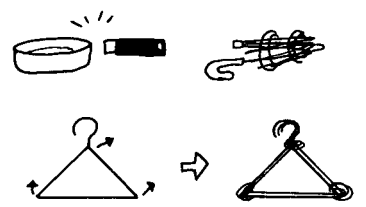
②ハンガーや傘を、ひもでしばって捨てたら平気でしょうか?

ひもは、空気の手力ではずれてしまいます。そして、ハンガーはからんだ所にゴミがひっかかり、また傘のほうも、中で開いてゴミをせきとめるかたちになり詰まってしまう。他には、食器洗いかゴもしがらみになってしまうので、よく詰まります。

③では、こういう物はどう捨てたらよいのでしょうか? フライパンなら、柄をはずします。傘は、折って

から針金などできちんとしばります。ハンガーは、3カ所をやはり針金などで巻きとめます。

→もしくは、幕張クリーンセンターへ直接お持ちください。☆まな板や食器洗いかゴも、幕張クリーンセンターへお持ちください。



センターからのお願い

①カン・ピンは必ず、資源ゴミとして出してください。②毛布や布団などのゴミは、粗大ゴミとして出してください。③有害ゴミは、管理人と自治会でゴミ置き場に専用の捨て場所を設置して、中央・美浜環境事業所に連絡してください。(殺虫剤・カセット式ガスボンベ・塗料などは、必ず中身を使い切って、穴をあけてください) 廃棄物空気輸送システムは、空気の流れを利用して収集していますので、1カ所が詰まると何カ所も収集不可能になります。みなさん、ゴミを捨てる時には、気をつけてください。

参考までに今まで詰まったものは、ミシン、多量のコピー紙・ビデオカセット、門松、まな板、鍋、洗いかゴ、アイロン、アイロン台、パラソル式折り畳み物干し、針金ハンガー、畳んだだけの段ボールなどです。(浜田)

本当に住みよい街とは (パティオス 13 番街の怪事件)

私たち家族がこの街(13番街)に住んで1年5カ月になります。この間、とても気持ちよく快適に暮らすことができましたが、この3カ月の間の出来事で、改めて本当に住みよい街とは?と考えさせられました。

去る6月、掲示板に、千葉県住宅供給公社から「バルコニーの手摺に布団をかぶせることは禁止されている」旨の文書が貼り出されました。数日後、その掲示物を勝手にコピーし、多数の個人宅にしつこく投函するという事件が起きました。投函された数戸の人達で相談し、公社に確認したところ、「公社は個人宅に投函していない。また布団をかぶせることは禁止していない。」ということを確認し、公社から、「公社文書のコピーの各戸投函は絶対にしないように」との掲示が出されました。にもかかわらず、その後、今度は、布団乾燥機のパンフレットが投函されたり、干していた布団に水をかけられる等、エスカレートした行為も発生

し、文書のコピー投函は現在も続いています。

以前に住んでいた団地(市内稲毛区の古い5階建)では、日頃の生活や自治会活動を通じて顔見知りが多く(私たちも順番で半年ほど自治会役員をやりました)、このようなことはまず起こりませんでした。ベイトウンは海浜ニュータウンの中でも新しい街なので、まだまだ居住者同士が知らないことが多く、自分達で解決しにくい状況だと思います。匿名で一方的に何回も送りつけるというイタズラ電話やストーカーのような行為ではなく、意見があるなら連絡先を示して表明し、相手と穏やかに対話できるようにすべきです。今回は、そもそも誤った見解を押しつけてようとしているものですが、たとえ正しい主張であったとしても、このような方法は許されるものではないでしょう(私は多くの居住者と話し合っているのもまだいいですが、もし1軒だけで思い悩んでいたらノイ

ローゼになったかもしれません)。本来、ベランダの使用については、必要ならば居住者全員で話し合って決めるべき問題だと思います。街並み景観はとても美しいこの街ですが、居住者相互の理解と思いやりが通じ合っこそ、うわべだけでなく本当に住みよい街になっていくのではないのでしょうか。(投稿:13番街 大竹)

今回は13番街の方からの投書をもとに構成しました。布団をベランダに干すことの是非については、各番街の管理組合でも様々な意見があり、ベイトウンニュースでも美観や通行者への危険という観点から議論のテーマになることはありますが、ベイトウン全体で統一した意見がある訳ではありません。問題は投書にあるように、解決を議論の場ではなく個人への攻撃に置き換えていることではないでしょうか。どのような問題であれ、話し合ってよりよい住み方を求めて行くということを続けることが幕張ベイトウンの住文化を育てることになると思います。(編集部)

“総体、頑張った3年生！”皆で二学期の充実をめざそう！

打瀬中校長 石原通男

40日余りの夏休みが終わり、校舎内外に子ども達の賑やかな声が戻ってまいりました。今年は真夏日が長く続き暑さの厳しい夏であったように思います。

夏休み中に行われた部活動の大会の様子については、8月号で一部をお知らせいたしましたが、応援のために各会場を見て回った私の感想も含め、改めてお知らせいたします。

市総合体育大会は、7月20日休みに入ると同時に、各種目一斉に熱戦の火ぶたが切られました。

本校の運動系部活動は、男子および女子バスケット、男子および女子テニス、陸上競技、水泳そしてサッカーの7つの部があります。

中学生の若さと熱気でまるで蒸し風呂のような市立千葉高校体育館内でのバスケット部の一回戦、うだるような炎天下のもと青葉の森公園陸上競技場で行われた陸上競技大会、同じ青葉の森公園テニス場でのテニス部の試合、朝日ヶ丘中学校グラウンドでのサッカー部の戦い、そして高州市民プールでの水泳大会と、いずれも3年生を中心に初戦突破をめざして健闘いたしました。

市内には56校もの中学校があります。その中には千人近い生徒数を抱えた大規模校や運動部の輝かしい伝統を持つ歴史の古い学校もあります。そうした状況の中で、歴史も浅く生徒数も少ない本校のようなチームが勝ち進み上位入賞を果たすということは大変な努力のいることです。善戦むなしく一回戦で敗れた部活もありましたが、どの部も選手諸君は流れる玉のような汗を拭いながら一生懸命に頑張ってくれました。

こうした中で、市民大会団体の部で準優勝した男子テニス部と男子個人戦の一組のペアが県大会へ出場いたしました。県大会へ出てくるチームは、どのチームもそれぞれ県内各地区の大会を勝ち抜いてきた力のあるチームです。そうしたチームが相手ですのでその壁を打ち破ることはなかなか難しく、善戦及ばず勝ち進むことはできませんでしたが、県大会に出場できたことは選手にとって、とてもよい思い出として心に残ったことと思います。

文化系部活動の面では、吹奏学部が8月5日に青葉の森公園芸術文化ホールで開催された

県吹奏楽コンクールに初めて参加いたしました。部員が13名と少人数編成での楽団ではありましたが、かつて歌手の坂本九さんが歌い大ヒットした「上を向いて歩こう」を演奏しました。部員の皆さんは大変緊張した面持ちでしたが立派に演奏し銀賞の栄冠を得ることができました。

審査員の先生方から、「とても素直なひたむきな演奏で感動しました。」「少ない人数でしたが、表現に気を使ったよい演奏でした。」等、お褒めの評価をいただきました。うれしいことです。

運動部の選手並びに吹奏学部の皆さん本当にご苦労様でした。

駆けつけて声援を送ってくれた生徒の皆さんや保護者、地域の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、二学期が始まりました。二学期は体育祭をはじめ、2年生の群馬県高原千葉村での自然教室や、文化祭など大変行事の多い学期です。

そして、秋はスポーツの秋、芸術・文化の秋、読書の秋でもあります。春に芽生えた草花も、夏に大きく葉を広げ花を咲かせ、秋には実を結びます。

この時期は、生徒の皆さんが、個人または学級や学年で授業への取り組みはもちろんです。様々な行事や委員会・生徒会活動等に取り組んできた今までの活動の成果をまとめ、発表する時期でもあります。

昨年文化祭では、保護者と地域の皆様方にご参加いただき、生徒とともに活動していただきました。当日は、沢山の方々に学校にお越しいただき大きな成果を得ることができました。



今、学校は「開かれた学校づくりの推進」という大きな課題を与えられています。本校はこれまでも皆様方にはたいへんご支援とご協力をいただいてまいりました。保護者や地域の皆さんとの連携を一層強め、二学期は子どもたちの活動を大いに盛り上げて参りたいと思います。どうぞ皆様気軽に中学校へお越しください。今学期もよろしくお願いいたします。



体育祭（9/11）文化祭（10/31）迫る！

各実行委員長に聞く

文化祭実行委員長から

打瀬中学校の文化祭も今年で五回目を迎えます。今年のテーマは「夢と希望の翼」です。各クラスでこのテーマに沿って、今までいろいろな工夫をしてきたと思います。本番で今までの成果を十分に発揮できるようがんばってください。

さて、今回は地域の方々の協力により、文化祭をさらに盛り上げることができ、大成功で終わることができました。今年も参加していただければ打瀬中学校の生徒全員により良い思い出をつくることできるようなと思います。ぜひ、今年も参加して下さい。お待ちしております。今年もクラス毎に、この文化祭でいい思い出が残るように、みんなで協力して、文化祭を成功させましょう。

文化祭実行委員長
皆川 哲宏

体育祭実行委員長になって

打瀬中の体育祭も今年で第五回目となりました。「飛び越えろ！気合と力で限界を！」をスローガンにし、体育祭実行委員会では、体育祭が少しでも盛り上がるような競技を考えてきました。全学年男子による棒たおし、全学年女子による棒ひきなどは見ごたえがあるのでぜひ地域の人達にも見て欲しいと思います。また、保護者の人たちをはじめ、見学に来ている誰でも参加できる競技なども考えていますので、参加していただくことで良い体育祭にしたいと思います。

僕が体育祭実行委員長として中心となって運営するのは初めてですが、昨年の反省などを生かして今年の体育祭が良くなるようがんばりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

体育祭実行委員長
郡司 毅